

表 アスパラガスを加害するアザミウマ類に対する殺虫効果

薬剤名	希釈倍率	ネギアザミウマ				ミカンキイロアザミウマ			
		圃場名				圃場名			
		A	B	C	D	E	F	G	H
アーデント水和剤	1000倍	×	◎	◎	◎	×	×	×	×
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	◎	○	◎	◎	×	×	×	×
モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	◎	○	◎	○	×	×	×	×
ダントツ水溶剤	2000倍	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×
スピノエース顆粒水和剤	5000倍	◎	○	◎	◎	×	×	×	◎
ディアナSC	3000倍	◎	◎	—	◎	○	—	—	◎
ファインセーブフロアブル	2000倍	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

死亡率 ◎：100～80%、○：79～60%、△：59～40%、×：39～0%、—：調査なし

## アスパラ害虫アザミウマ類 種類を確認し殺虫剤選択を

ミカンキイロアザミウマ



アスパラガス栽培ではアザミウマ類が若茎（可食部）を加害し、品質低下などの要因となっている。これまで主な加害種はネギアザミウマといわれていたが、近年、当センターの診断により、諫早市の一部圃場でミカンキイロアザミウマの寄生が確認された。そこで、県内のアスパラガス圃場で発生しているアザミウマ

現場で使える！研究成果

マ類の種構成を調べるとともに、殺虫剤に対する感受性を明らかにした。アザミウマの発生種を2022年5～6月に県内で調査した結果、ネギアザミウマが28圃場中23圃場で優占する一方、ミカンキイロアザミウマは5圃場で発生を認められ、そのうち3圃場で優占していた。また、今回発生を認められたアザミウマ2種を対象にアスパラガスで登録がある農薬について室内実験により薬剤の効力を調べたところ、ネギアザミウマに対しては7薬剤中

3剤で高い効果（死亡率80%以上）を示した。一方、ミカンキイロアザミウマに対して高い効果を示す薬剤は1剤のみだった。アザミウマによる被害が確認できた場合は、発生種を確認したうえで、それに応じて殺虫剤を選択することが重要となる。（長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 吉村友加里）